

新 名 誉 会 員



田 畑 新 太 郎 君

日本科学技術情報センター理事長

前 日本鉄鋼協会専務理事

君は、昭和 14 年 3 月東京大学工学部冶金学科を卒業後直ちに商工省に入省し、同 24 年 6 月工業技術庁調整部調査課長、同 25 年 7 月通商産業省通商鉄鋼局製鉄課長、同 31 年 5 月科学技術庁企画調整局企画課長、同 34 年 7 月日本貿易振興会シンガポールセンター所長、同 37 年 10 月通商産業省審議官を経て、同年 11 月日本鉄鋼協会専務理事に就任、同 56 年 4 月より 2 年間副会長、同 56 年 9 月日本科学技術情報センター理事長に就任し現在に至っている。

君は、日本鉄鋼協会専務理事に就任して以来当協会の拡大強化、従来事業の飛躍的發展はもとより鉄鋼技術の情報収集提供事業、鉄鋼標準規格事業等の新規開設および拡充ならびに国際技術交流に力を注ぎ、当協会を世界有数の学術団体に成長させた。

その主なものは次の通りである。

1. 鉄鋼技術情報センターの新設

君は激増する鉄鋼に関する科学技術情報を円滑に流通させ科学技術の発展を支援するために技術情報センターの新設に努力し、昭和 53 年にこれを実現した。開設以来端末機の普及をはじめ機械文献検索の迅速性に応じ得る体制を確立し学界業界において役立っている。

2. 鉄鋼標準規格の拡充と ISO/TC17 幹事国事務局の開設

君は、鉄鋼規格は学術団体が実施するのが最適と考え日本鉄鋼連盟から全般にわたる鉄鋼規格事業の移管を受け標準化委員会を設置してその拡充に力を注いだ。

また、従来英国が担当していた ISO/TC17 幹事国の辞意表明に際し、君は国際規格の重要性を認識し、わが国鉄鋼業界の国際的責務として幹事国業務を引受けるべきであることを説き、昭和 54 年 4 月当協会に幹事国事務局開設の道を開いた。

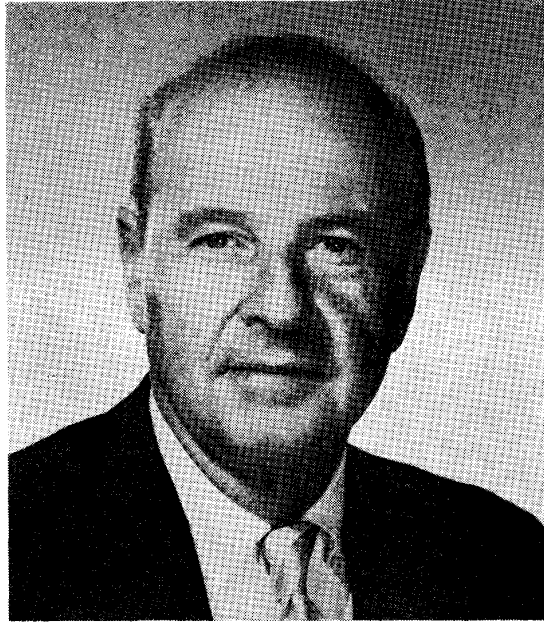
3. 国際鉄鋼技術交流の推進

君は、国際技術交流の必要性に着目し、先進工業国、開発途上国を問わず各国学協会と親密な関係を結び、国際会議への参加、学術技術調査団の派遣および受入れ等を強力に推進した。その結果鉄鋼科学技術国際会議（1970 年）鉄鋼展延国際会議（1980 年）を誕生させ、また多くの二国間シンポジウムを持つに至った。

以上数々の優れた業績により、昭和 50 年 4 月当協会製鉄功労賞、同 53 年 9 月チエコスロバキア商工会議所 Goodwill Silver Medal（勲章）、同 54 年 12 月フランス政府オールドウル・ナショナル・デュ・メリット勲章シユバリエ章、同 54 年 4 月藍綬褒章を受けた。

また、ドイツ鉄鋼協会名誉会員、汎ラテンアメリカ鉄鋼協会名誉会員、イギリス金属学会名誉会員、アメリカ金属学会 Distinguished Life 会員等各国学協会の名誉会員に推挙されているほか国内の多くの学協会役員として指導的役割を果たしている。

新 名 誉 会 員



Donald Johnson Blickwede 君
American Society for Metals 会長
元 Bethlehem Steel Corporation 副社長

君は 1942 年 Wayne State University 化学工学科を卒業、Curtiss Wright Corporation を経て 1945～48 年 Massachusetts Institute of Technology で研究に従事、1948 年 9 月に冶金学の博士号を取得し、同年海軍研究所に移り高温用合金研究部長に就任、1950 年 1 月に Bethlehem Steel Corporation に入社、1964 年 12 月から 1982 年 7 月まで 18 年の長期に亘って研究担当副社長を歴任した。

君は主として研究開発の業務に従事し、冷延鋼板の表面特性に関して、界面組成、時効硬化と異方性、介在物、表面欠陥、焼鈍機構などについて多くの成果を発表している。これらは開発研究にとどまらず、優れた洞察力に基づく研究への着眼、精緻な手法による現象の解明、解析は学問的にも優れた業績として高い評価をうけ、この分野における研究の発展を促す起因となつた。

君が開発したほうろう用鋼板、Al-Zn 合金めつき鋼板は実用性の高い製品として広く知られている。この他鉄鋼業における原子力の利用についても提言を行つている。

君の活動は学界と産業界に広範に亘つていて、National Academy of Engineering の会員に選出されているほか、American Iron and Steel Institute の General Research Committee の委員長、全米大手企業の研究開発担当役員が研究開発などを討議する権威ある組織 Industrial Research Institute の会長を歴任、American Society for Metals (ASM) の Fellow Member であり 1983 年 10 月の ASM Congress では会長に選出された。

君はこれらの功績により、ASM で E. D. Campbell (1968 年)、W. P. Woodside (1969 年)、ASM-Cleveland Chapter で Z. Jeffries (1970 年)、The Porcelain Enameling Institute での Andrews (1972 年) と各記念講演を行っている。また 1977 年には ASM の W. H. Eisenman Award を受けている。

君は会誌“鉄と鋼”鋼材の表面処理特集号(第 66 年第 8 号—昭和 55 年 6 月—)に論文「55%Al-Zn Alloy Coated Sheet Steel」を投稿している。

また、本年 4 月本協会春季講演大会において「The New Look of Sheet Steels」の演題のもとに湯川記念講演を行うことになつている。この他、これまでに日本から数多くの研究者、技術者が君を訪問し、学術・技術の問題で種々の討論を交わしているが、卓越した識見と豊富な経験に基づいた示唆、助言に訪問者は大いなる啓発をうけ業務遂行に裨益している。